

海況速報

平成2年度 第2号 (No.14)

平成2年 6月 21日

北海道立水産試験場

5月下旬～6月上・中旬の海況

〔日本海海域〕

表面水温は、道北沿岸～利礼周辺海域では10～13℃台ですが、道南海域では16～17℃台まで昇温しています。6月上・中旬、石狩湾内の表面水温は14～15℃です。

北緯44度付近には、雄冬岬沖から東経139度付近の沖合域まで東西に2～3個の暖水渦がみられています。

茂津多岬西沖から青森県ヘナシ崎西沖には東経139度前後まで沖合冷水が分布しています。しかし、北緯40度の入道崎西沖では暖水域が沖合へ延びています。

〔オホーツク海海域〕

宗谷岬沖～知床半島付近までのごく沿岸、宗谷暖流域の表面水温はオホーツク海で最も高い10℃台に達しています。

中層では沖合域の中冷水との間に著しい潮境（フロント）を形成しています。この潮境域の表面では枝幸沖と紋別沖の2カ所にそれぞれ5℃、6℃台の冷水渦がみられています。

〔道東太平洋海域〕

表面水温は、根室半島沖で4℃台と最も低く、エリモ岬沖にも5℃台の冷水があります。最も高いのは9℃台で、釧路から広尾にかけての沿岸域には北緯41度、東経145度付近の暖水域から分離したとみられる小さな暖水塊がみ

られています。

50～100m層でみると、最も冷たい親潮水の中心はエリモ岬沖から南西方向へ流去している模様です。

〔道南太平洋海域〕

表面水温は9～12℃台となっています。中・下層でみると、津軽海峡東口の南側下北半島付近から津軽暖流の暖水が東沖に延びて親潮冷水と潮境をなし、反転して胆振沿岸域へ向かっているのがわかります（50m層では分離した小暖水塊となっています）。

今期、北海道周辺海域の表層水温は昨年と比べると、全般的に昨年より高めの所が多くなっています。

なお、余市での沿岸水温（旬平均）も、5月以降、6月中旬まで 平年比で+0.6～+1.0℃となっており、依然高温傾向が続いています。

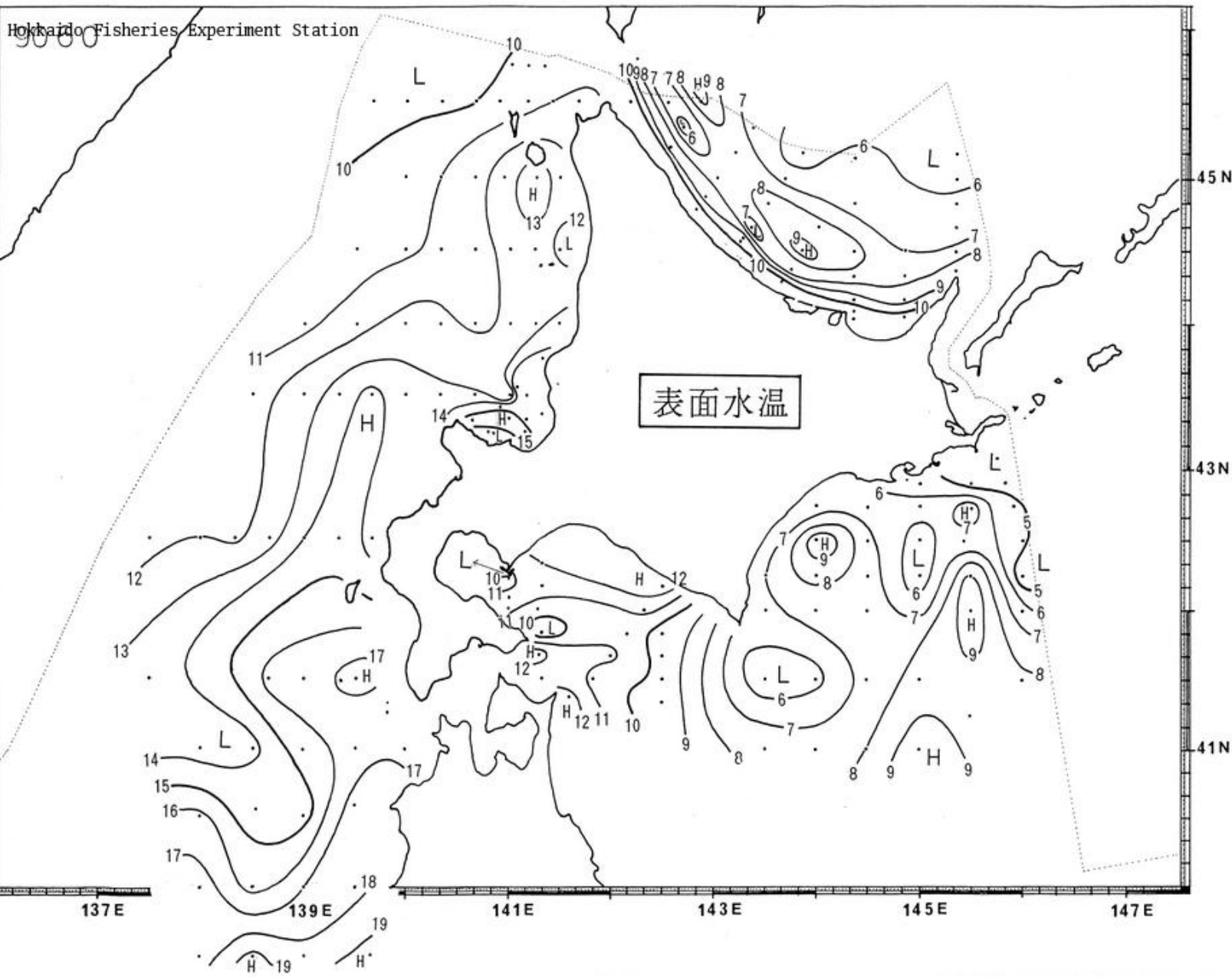
資 料 〔観測期間〕

稚内水試（北 洋 丸）	5.28 - 5.30	（道北日本海海域）
稚内水試（北 洋 丸）	6. 4 - 6. 6	（オホーツク海海域）
釧路水試（北 辰 丸）	5.18 - 5.22	（道東太平洋海域）
函館水試（金 星 丸）	5.28 - 5.30	（道南太平洋海域）
中央水試（おやしお丸）	6. 5 - 6. 8	（道央～道南日本海海域）
以上の定期観測のほか、下記の調査資料を使用した。		
函館水試（金 星 丸）	6. 4 - 6.12	（日本海スルメイカ調査）
中央水試（おやしお丸）	6.12 - 6.13	（石狩湾卵稚仔調査）

なお、5月2日付海況速報第1号の資料中、中央水試（おやしお丸）の海域（道央～道南太平洋海域）は日本海海域の誤りでした。

（中央水試 海洋部）

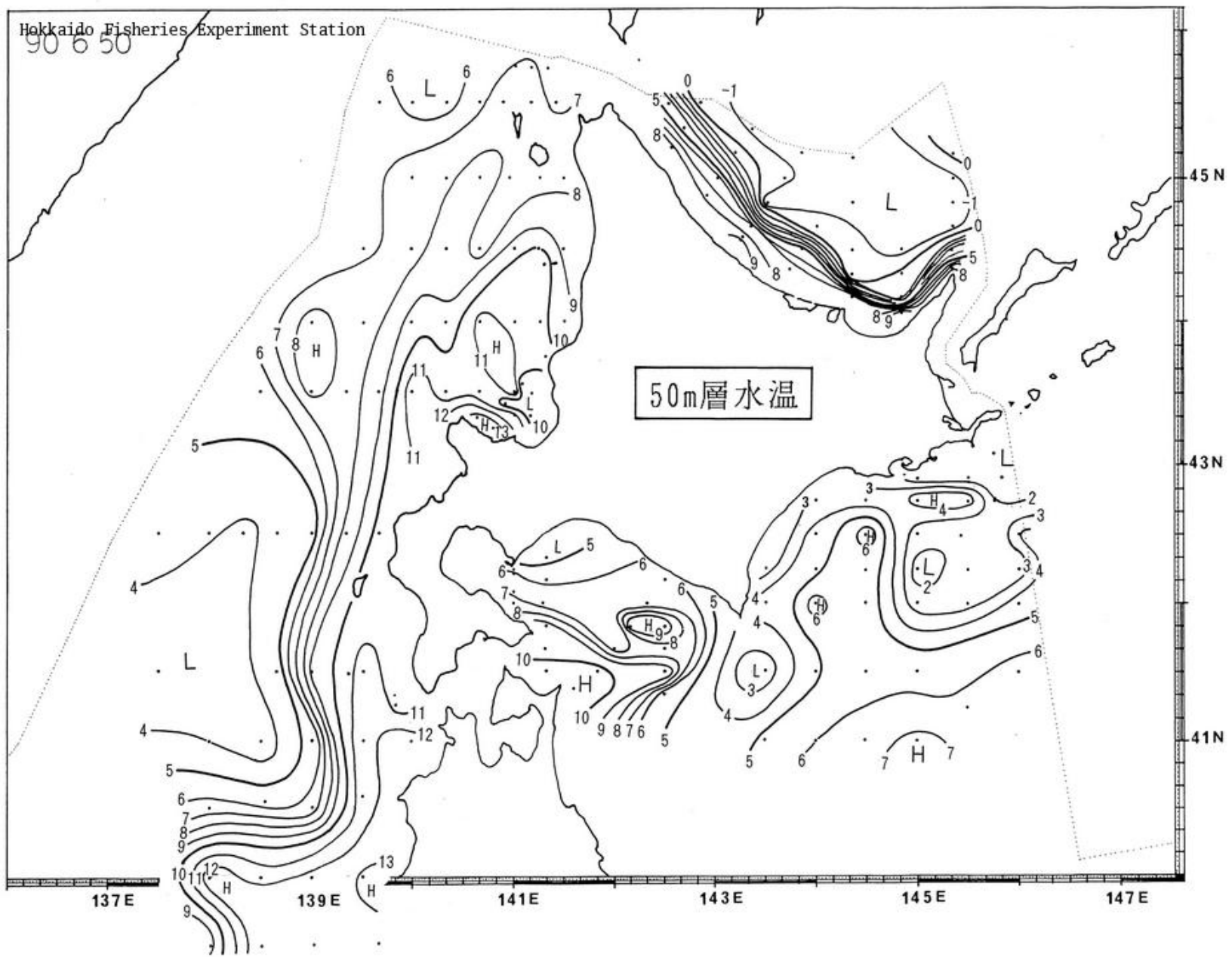
Hokkaido Fisheries Experiment Station



Hokkaido Fisheries Experiment Station

90 6 50

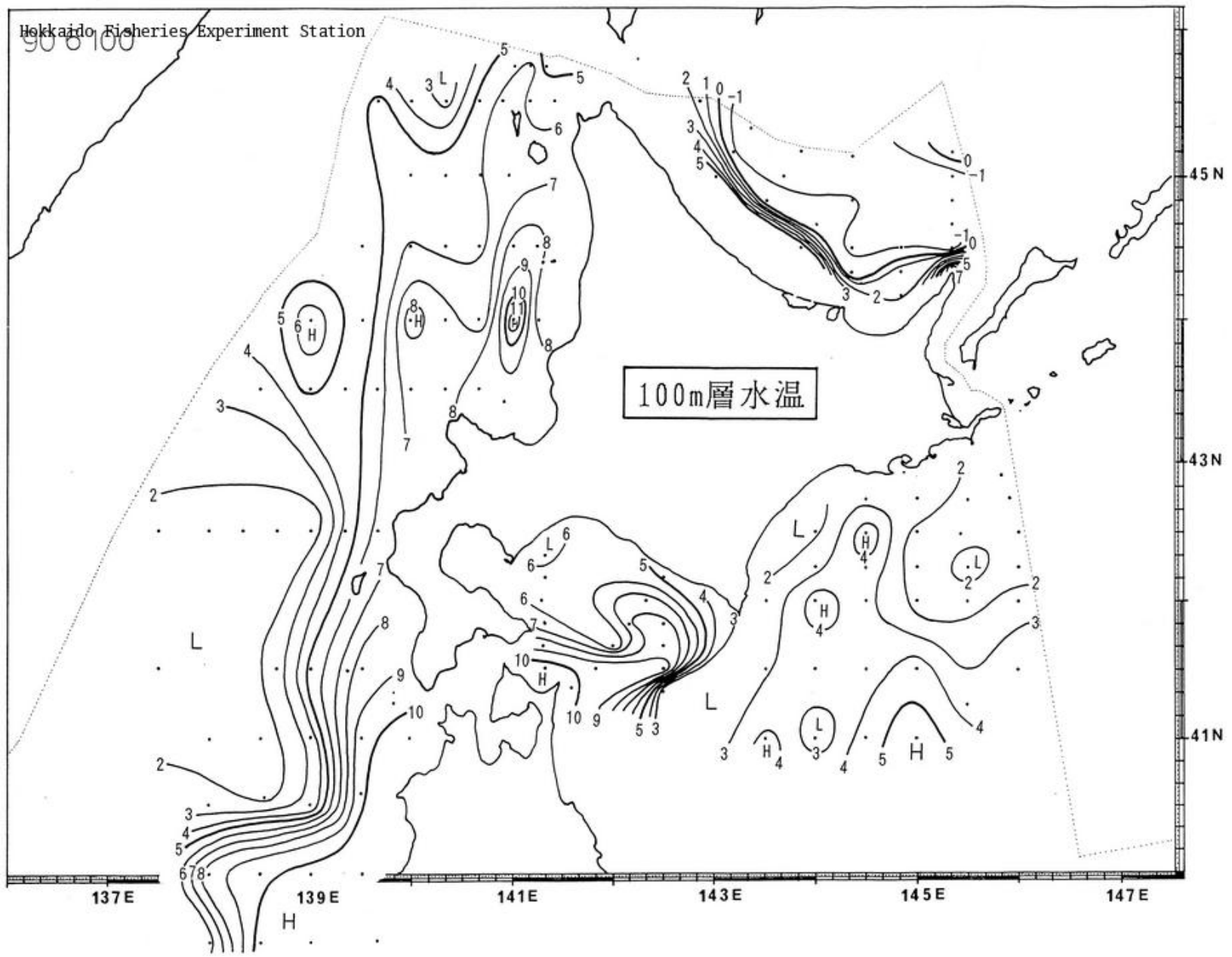
50m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

90 8 100

100m層水温



Hokkaido Fisheries Experiment Station

90 6 200

200m層水温

